

『ウェルネスフードジャパン 2023』

会期：2023年8月2日（水）・3日（木）・4日（金）

会場：東京ビッグサイト東展示館

主催：ウェルネスフードジャパン実行委員会

共催：一般社団法人ウェルネスフード推進協会

来場事前登録：<https://caferes.pregis.exhibi.jp/ja>

セミナー情報：<https://caferes.jp/seminar/>

ウェルネスフード推進協会主催セミナーに参加ご希望の方は、事務局にてお席を用意させていただきます。

事務局・清水までご連絡いただけますと幸いです。

■8月2日（月）

【D-2】時間栄養学の視点から考えるヘルスケアの新たなアプローチ

・開催日時：8月2日（水）13:00-14:30

・登壇者：

・柴田 重信氏（広島大学 医系科学研究科 特任教授/早稲田大学 名誉教授）

・矢澤 一良氏（早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門 部門長）

「時間栄養学の視点から考えるヘルスケアの新たなアプローチ」

食事摂取は心身の健康観を増し、社会的・個人的な満足感をもたらす。健康増進のために食事のタイミングを考慮する時間栄養学はウェルビーイングの実現に寄与する。時間栄養学は食や栄養が体内時計に働きかける方向性と、逆に体内時計が食や栄養の効果に働きかける方向性がある。前者の例として、朝食では炭水化物—インスリン、タンパク質—IGF1が、また水溶性食物繊維（F）は短鎖脂肪酸産生を通して末梢時計を朝型にリセットさせる。後者の例として、朝食のFが便秘解消に役立ち、セカンドミール効果を介して昼食・夕食の血糖変化を穏やかにする。一方、夕食のFは短鎖脂肪酸でpHを酸性にし、カルシウム吸収を促進させる。

【D-3】腸内環境、研究最前線

・開催日時：8月2日（水）15:00-16:30

・登壇者：

・國澤 純氏（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 / ヘルス・メディカル微生物研究センター センター長）

・矢澤 一良氏（早稲田大学 ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門 部門長）

「腸内環境、研究最前線」

近年、「腸内環境」や「腸活」「善玉菌」などの言葉が広く知られるようになり、健康を語る上で腸の働きは最重要項目になっています。腸の働きは、食べるものの影響を強く受けますが、宿主側の因子だけではなく、腸内細菌も関係しているようです。私たちは現在、食品成分や腸内細菌が形成する腸内環境と健康との関係について、ヒトを対象とした研究と動物モデルや分子生物学的手法を用いた基礎研究を融合させながら研究を進めています。さらに、研究から得られた知見をもとに、食品の開発や創薬、ヘルスケア産業への展開にも取り組んでいます。本講演では、我々の最近の知見を中心に、新しい健康社会の実現に貢献する腸内環境に関する研究の最前線について紹介したいと思います。

■8月4日（金）

第6回ウェルネスフードアワード2023 最終審査及び授賞式 ※参加申込不要

・開催日時：8月4日（金）13:00-17:00

・開催場所：セミナー会場

・プログラムおよび最終審査通過商品：詳細は以下 URL をご確認ください。

<https://www.nihon-kenko.jp/index.php/report/archives/117>